

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けに取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	21	入居者同士の関わりも大事にし、共同生活を行って頂いているが、突然興奮しだす方などが、孤立してしまっている時がある。更なるトラブルを防ぐ為、離れてしまい、孤立してしまう状況を職員が作っている時がある。	・入居者同士の苦手意識をなくし、仲良く楽しい共同生活を送る。	・興奮したり不穏になりやすい入居者の傍に職員が位置し、トラブルを未然に防ぐ。言葉に気をつける。 ・昭和の名曲・動揺など皆が知っていてテンションが上がるような、楽しい気持ちになれるような歌を歌う。	12ヶ月
2	35	定期的な訓練は行っているも、意志疎通が難しい入居者の誘導に時間がかかり、別の入居者の事故等二次災害に繋がる恐れがある。特に職員一人の時が心配。	・二次災害が起こらないような誘導ができるように考える。	・一人でも落ち着いて対応できるよう、常にシミュレーションしておく。 ・誰から誘導するのか等、具体的な案を考える。 ・多動等も想定し優先順位を決め、他ユニットとの協力体制を整える。	6ヶ月
3	49	積極的な個別外出ができていない。外出する入居者が特定されやすく、また、誘っても断られたりしている。	・気の合う入居者同士、若しくは個別での外出を積極的に働きかける。	・甘味を食べに行ったり、鑑賞に行ったりと、入居者個人の希望を聞き出し、それに見合った外出をする。 ・断られたら無理強いはいしないが、声掛けを変えたり工夫してみる。	12ヶ月
4	37	活動時等、職員が決めてしまっていることが多い。外出や出前も「みんなと同じでいい」との声が多く、個人の意見を持てていない感じである。	・一人ひとりの希望、要望、意見を尊重できるような対応、声掛けをする。 ・意見が言いやすい環境作り。	・日々の意志決定、食べたい物等、個人が自分の思いを伝えられるような、具体的な問いかけ、声掛けを心掛ける。 ・活動時、必ず「何がしたいか」「どんなことをしてみたいのか」漠然とではなく、具体的な事や、写真等を見ていただき、例として挙げてみる。	12ヶ月
5	26	職員間での情報共有はできているが、ご家族や主治医等からの意見を反映できていない。	・本人を交え3ヶ月に1回の介護計画の立案・見直しを行っており、職員間での情報共有をしているが、もっとご家族や主治医等に情報を提供して頂けるように働きかける。	・アセスメントを基に、ご家族からの情報をお聞きし、反映させる。 ・通院時には、主治医と職員一人ひとりが情報収集と共有に努める。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	21	入居者同士の人間関係に配慮し食席やお茶時の席を考慮しているが、言葉の暴力(攻撃的な言動や、いやみ等)が聞かれることがある。	入居者同士の人間関係を考え、食席だけでなく、役割活動や入浴時なども、職員同士で話し合いながら、周囲の状態、本人の状況も考慮しながら対応する。	職員が連携し、入居者とのコミュニケーションを密に取りながら気分や状況把握につとめ、食席やお茶時の席だけでなく、未然に防ぐためにも話題の転換やさりげないフォローなど、職員が意識して行う。	3ヶ月
2	49	本人の希望に応じた外出は行っているが、より入居者の行きたい場所への把握等を行いながら、支援が必要。	生活歴を見直しながら、必要に応じて家族からの情報収集も再度行い、本人の希望はどんなものなのか、また、希望の聞き方についても工夫する。	写真等やパンフレットなどを利用し、入居者にわかりやすく説明すると共に、普段の会話から些細な事でもケース記録に記入し、職員全体として情報を共有し、外出先での様子も詳細に記録し、今後に繋げていく。	3ヶ月
3	36	プライバシーを損ねない声掛けを心掛けているが、日々の関りや周囲の状況に応じては口調が強くなってしまうことがある。	入居者への関りを振り返ると共に、どんな場面でも多くなるかを、職員間で話し合い、些細な禁止についてもきちんと把握しながら、改善する。	ミーティングでこういった場面でみられたか、又気を付けなければいけない場面を話し合い、心掛けた対応を行い、再度振り返りの機会を作る。	2ヶ月
4	35	災害時を想定し、火災に加え土砂災害についての避難誘導の順番について、入居者の状態も変わっている為不安がある。	ミーティング時に火災時、土砂災害時の避難誘導順番と備蓄食料の確認、シュミレーションを行い、全職員がきちんと把握する。	避難誘導時のマニュアルを再度確認し、職員間でシュミレーションを行いながら話し合い、誘導時の注意点等も記入し、安全に誘導できるようミーティングで話し合う。	3ヶ月
5	13	現在は、経験年数等に応じた研修を行っているが、職員側からの興味のある研修への参加が少ない。	職員一人一人の研修への意識向上を図り、自分自身どの分野の知識やスキルが不足しているかを見つめなおす。	職員一人一人がどんな研修に参加したいか、又その研修によって、どのような効果が期待できるかを考え、研修後はきちんと研修内容を伝達研修や、業務へ取り入れる。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	入居者各個人の性格、生活歴を把握しプライバシーを損なわないような対応を心掛けているが状況によって感情が出てしまう事がある。	入居者各個人の性格、人格を尊重しその人の尊厳を守る。また、信頼関係があっても目上の人に接するという事を忘れずに礼儀を重んじる。	・職員一人一人が気持ちにゆとりを持ち、客観的な自分を持ちながら対応する。 ・職員同士のコミュニケーションを図りながら連携しあう。	6ヶ月
2	49	外出は多く行っているものの職員が行先を決めてしまう等主体性を欠いてしまうことがあった。	決定権は入居者の方にあることを忘れずに職員はアドバイスやサポートを行いスムーズに外出出来るよう支援する。	・入居者との関わりや会話の中で外出先の希望を聞き出す。 ・家族面会時等本人の希望をお伝えし自宅・近所・思い出の場所等にも出掛けられるよう段取り、支援していく。	6ヶ月
3	38	その人らしい生活・ペースを尊重しているがGHの生活のリズムが優先となっていることが多い。	本人のペースを尊重し思いを取り込みながら共同生活が営めるように支援する。	・その日、その時の気分、体調等を考慮しバランスの取れた生活が出来るよう支援する。 ・本人の希望や生活歴・その時々での行動、言葉に目を向け職員全員で把握する。	6ヶ月
4	40	食事の準備や片付けの際一人一人の力を活かすことが出来ていない事が多く特定の入居者のみが行っている事が多い。	入居者一人一人が一日一回以上食事準備に関わる場を設ける。	・入居者の方の残存能力の把握。 ・参加意欲を引き出せるような声掛け及び参加頂いたことへの労いの言葉を送る。	6ヶ月
5	42	ADLが自立している入居者へ口腔ケアの声掛けはしているものの確認が不十分で声掛け止まりが多かった。	口腔内の清潔保持の重要性を再認識し確実に口腔ケアできるよう支援する。	・歯ブラシを手渡し磨いて頂く所まで確認する。 ・口腔ケアの重要性を日頃からお伝えしていく。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	プライバシーを損ねない声掛けを心がけているが、日々の関わりの中で、感情が出てしまうことや、馴れ合いが生じたり、時間に追われ急かしてしまったり、焦りから口調が強くなる場合がある等、職員個人の判断での対応となってしまう事がある。又、入居者一人一人に同じ対応が出来ていない。	自らの関わりについてそれぞれが振り返り、どんな場面で特に気を付けなければいけないかを、ミーティングで話し合い、意識統一を図りながら、お互いに注意し合えるような環境を作る。又、入居者に優先順位を付けず、人格を尊重し禁止語・制止語等の否定的な言葉は使わず、プライバシー保護を常に念頭に置く。	ミーティングでプライバシーや自尊心等について考え、それぞれが、どういった場面で気を付けなければならないのかを振り返り、声掛け一つにしても入居者がどうとらえるか職員一人一人が考えながら意識して関わりを持つ。又、各入居者を尊重し且つ平等に接し、マンネリや馴れ合いを防ぐ。	3ヶ月
2	21	予測できそうなトラブルに関しては未然に防ぐよう心掛けているものの、予測できないトラブルが起こった際なかなか興奮が収まらない入居者もあり、周囲の入居者が不愉快な思いをしたり巻扱いになってしまうことがある。又、一度イライラすると様々な事に対し陰口が続く場合もあり、収める事が難しい。	常に職員が状況把握に努め、トラブルがあった際は迅速に対応しそれ以上発展しないように場所を変えたり陰口が見られた時は話題の転換・気分転換を行い、周囲の入居者が不快にならない様、仲裁とそのフォローを職員間で連携して行う。又、入居者の性格やこれまでのトラブルの状況を把握する。	常に状況把握に努め(表情等気配り観察)、職員が連携し不愉快になりそうな入居者の対応を迅速に行い、その後のフォローについても、話題の転換や個々に応じた気分転換を図り普段以上に関わりや会話を多く持つなどし、遺恨が残らないようにする。又、以前起きたトラブルの状況を把握し、未然に防げる様にする。	3ヶ月
3	48	自分の仕事として捉えている入居者もおられ、役割活動が固定化され、意思疎通が困難な方は生活歴や家族の話から情報を取り入れている為職員本位になってしまっていたり、ADLの差もありマンネリ化してきている。又、個別外出等の機会もADLの高い入居者に偏りがちである。	入居者それぞれの状況や力量に合わせて一人ひとりの意志を汲み取れるよう工夫し、日々の生活から笑顔や喜んでいる表情をくみ取り、業務日誌に記載しながら職員で意識統一を図り、個別的な援助を提供する。又、出来る事をして頂き、楽しみや優越感・新しい残存能力の発見に努める。外出の機会も均等に持つ。	チェック表を活用し入居者一人一人が日々どの程度役割活動や外出が行えているか把握し、機会を均等に持てる様にする。又、自分の活動に張り合いを持って頂きながら新たな一面を探る意識を職員一人一人が持ち、生活歴や職員の価値観のみで判断しない様も一度入居者を見つめ直す。	3ヶ月
4	35	災害時を想定し、外出の際に入居者誘導の順番や全員を誘導するのにどの程度の時間がかかるのか、シュミレーションを行っているものの、実際に起きた場合にマニュアル通りいくか不安が残る。又、入居者の状態の変化もあり、園全体の訓練だけでは訓練不足。職員全員の参加が勤務の関係で不可能である。	災害時、入居者全員が安全に避難できる方法について、シュミレーションを行い、災害時の必要物品について確認し、他部署も交えた職員との協力体制を築く。又、避難訓練の結果をミーティングで振り返り考える時間を設け、実際の場面に備える。入居者の状態が変化した際には見直しを行う。	ミーティング時にシュミレーションや避難訓練の結果の検証を行い問題点があれば改善手順書を作成し、事前に誘導の順番等を職員が把握し入居者全員が安全に避難できる様にする。	3ヶ月
5	37	自分の意志や希望を表現できる入居者に関しては、出来るだけその思いに添えるように努めているが、自らの意志を表現しにくい入居者に関しては、他入居者の意見を優先させてしまう場合がある。	入居者一人一人の意志を汲み取れる様、日々の生活から楽しそうな表情や出来事を業務日誌に記載し個別援助計画にも反映し、職員で把握して自らの意志を表現しにくい・意思疎通が困難な入居者にも均等に個別的な援助を提供する。	自分の意志・希望が表現し易い様に選択肢を設け、より自己決定出来る環境を作る。又、写真やパンフレットなど、外部の情報をもっと取り寄せ、何がしたいのか、どんな事に現在興味を持っているのか、より引き出せる様選択肢を増やし声掛けや関わり方も工夫する。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。